



富士毘沙門天に初詣（みはるの丘浮島）



「感動の種をちりばめよう」

法人本部長 木内 和美

伊豆の国市の元旦マラソンで二kmのウォーキングに参加して、いつになく穏やかな新年を迎えたと思っていた矢先の能登半島地震でした。災害はいつ起きても不思議はありませんが、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。能登半島は、気候や地形に差があるとはいえ面積や人口など私たちが住む伊豆半島とよく似た状況です。道路網の寸断、電気・水道などのライフラインへの甚大な被害などを思うと改めて災害に対する物心両面での備えと心構えを持たなければならぬと思います。

えることが少なくなるからだ、N局の番組「チコちゃんに叱られる」で言っていました。

私も春風会にお世話になって二十一年近く、古希に手が届く年齢になりました。つくづく月日の経つ速さに驚かされますが、ことに最近はその傾向が顕著です。子どものころはゆっくりと感じられる時の流れが年を重ねるごとに早くなっていくようです。「巨人の星」で星飛雄馬の瞳が燃え上がってから翌週末でがんと待ち遠しかったか。大人になって時間の経過が速く感じられるのは、子どもの時のように新たな感動を覚

小学校入学は一年二十数名の三学年までしかない小さな分校でした。冬は霜柱を踏みながら、夏はクワガタムシを探しながらの登校。理科の授業で近くの小川にタモを持って小魚や水中の昆虫を採りに行った楽しい思い出がよみがえります。新しい発見、知らないことを覚えることで頭の中は大忙しだったので。翻って、今では積み重ねてきた経験から多くのことに予測がついてしまいます。感動が少なくなってしまう

施設で、あるいは在宅で過ごす利用者さんやその家族、そして職員も小さな感動の種を捜すことが大切かと思えます。そしてそれを伝え、共有していくことが。正月の行事、梅や桜の開花とそこに集う小鳥、さわやかな五月の風、七夕、夕立、風鈴、十五夜、目や耳や肌で感じる感動の種があちこちにあるはず。日々の生活のなかに様々な感動の種をちりばめていきましょう。



- ① 社会福祉法人のブランド力と地域貢献度の向上と共に伝統に胡坐をかかない、時代の変化に先行せよ
- ② 令和6年度の法人の新規事業への取り組み
- ③ 次世代のリーダーの登用と介護職員の人材確保と育成
- ④ 児童虐待防止・高齢者虐待防止及び介護事故等について
- ⑤ 施設での看取り介護の推進と認知症介護の取り組み
- ⑥ 高尾園や障害者施設等での農福連携等の新規事業や高齢者の在宅支援事業
- ⑦ 施設機能の効率化や生産性の向上と経費削減への本格的な取り組み



春風会の役職職員合同研修会は令和6年1月22日に開催され、石川理事長より令和6年度の理事長報告及び法人の基本方針について報告がありました。

令和6年度は、これまでの3年間の新型コロナウイルス感染症対応の経験や反省を活かし、法人としては医療面を含め新型コロナウイルス感染症対策、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症対策を見直し、感染症拡大を阻止できる体制づくりを今まで以上に構築していきたいと思えます。特に準職員、外国人介護職員等を含めた全職員への感染症予防の研究・教育体制の確立に注力していきたいと考えています。

1 社会福祉法人のブランド力と地域貢献度の向上

令和6年度、社会福祉法人春風会は法人創49年目を迎え、約半世紀近い歴史と伝統を持つ法人になります。これまでの多くの先輩・先人達が献身的に築いてきた春風会の社会的信頼度・信用度、ブランド力を更に高め、地域社会に貢献する法人を目指していく必要があります。

法人が半世紀近くで築き上げてきた信頼度・ブランド力は、多くの利用者と家族・地域住民と法人の各事業所を強く結ぶツールであると言えます。また、法人が築き上げてきた信頼度・ブランド力こそ、民間事業所や他施設との競争に打ち勝つ大きな武器になると考えますが、決して歴史と伝統に胡坐をかいて、おごったり、油断をしたり、怠慢、安易な妥協、マンネリ化してはなりません。生き残るものも賢いものでも強いものでもなく、状況に応じて変化できるものだけが生き残っていくものと思えます。常に周りの変化に先行して自己変革を遂げていかなければ、あっという間に衰退してしまいます。常に変化できる状況というものを弾力的にマンネリ化しないので考えていかなければならないと思えます。



2 法人の事業展開等について

令和6年度も、地域介護力の向上と介護人材の養成・確保の為に、介護職員初任者研修事業と介護職員実務者研修事業の二つの事業については、継続事業として実施したいと考えています。いかに多くの地域住民に、介護力を身に付けていただき、介護ボランティア・高齢者を支える地域住民を養成していくことも、私たち法人の役割と考えます。介護の関係人口を増やし、1億福祉人時代の構築に向け法人としても取り組み、特に、介護の仕事から直接介護や周辺業務の仕事を取り出し、それをお手伝いカタログに整理し、ボランティア希望者へと橋渡しする新事業についても検討をしていきたいと考えています。

昨年4月に法人として24時間の在宅医療・介護の体制を確立するために、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業と訪問看護リハビリ事業をプレーグあしたかにて開始しました。この2つの事業は、今後も確実に軌道に乗せいかねばならない大

切な事業です。また、伊豆地区においても定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業は必要であると考えており、その事業展開について検討を進めていかなければならないと考えます。

3 次世代のリーダーの登用と介護職員等の人材確保と育成

介護人材の確保については、新規学卒者や定年退職者や主婦層等の中途採用者の積極的な雇用を今後も進めて行きます。EPA等による介護人材の採用・育成を計画的に拡充・継続し、更にミャンマーやカンボジア・ベトナム等の技能実習生・特定技能生の受け入れも積極的に実施したいと思えます。外国人介護人材を単なる労働者としてではなく、地域社会の担い手として、コミュニティの仲間として捉え、一緒に共存共栄する仲間として考え、その為の日本語教育・指導に力を入れていきたい。外国人介護人材の増加に伴い、法人内に外国人人材対策部会を設置し、外国人人材の育成・教育マニュアルの作成と各施設に

育成担当職員の配置をして、人材育成に努めていきたいと考えます。

また、今年度も、職員の離職防止のための対策と職員のメンタルヘルス対策を積極的に実施します。少子高齢化の中で新規学卒者の採用も難しい時代であることから、高齢者の再雇用をはじめ職員の定着率の更なる向上と離職防止を最優先に考え、職員の健康管理をはじめ体力強化や腰痛予防など、職員との定期的な面談の実施等によるメンタル面のサポート体制や業務の見直し、生産性の向上に取り組むみ、長時間労働ゼロの実現などを推進していきます。

4 児童虐待・高齢者虐待防止及び介護事故の削減に向けて

静岡県東部では、保育園での児童虐待事件並びに精神科病院での患者への暴力事件など大変残念な事件がありました。更に、残念なことに昨年には、幼稚園バスでの痛ましい送迎事故もありました。職員の気の緩み、マナー化、おごり、怠慢などが

ら虐待問題や各種の事故が発生していると思えます。法人では、今年度も法人・各施設での職員の接遇マナー研修や高齢者等虐待防止研修を定期的開催して、モラル・倫理観の教育に力をいれていきます。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行等に伴い、感染症対応への疲れからか介護現場の緊張感が緩み、

転倒骨折などの介護事故が例年に比べて多く起きていたと思えます。事故やミスが起きた時、職員個人の注意力不足等で片付けていては、いつまでも事故はなくなりません、「なぜ」を5回繰り返し返して真因に迫り、本質的な解決を図る必要があります。職員の不注意・勘違い・先入観から事故やミスは起きて、職場全体の問題として捉え、デジタル機器の全居室・全ベッドへの導入をはじめ、介護の見える化やダブルチェック、トリプルチェックにより事故を防ぐ工夫をしていくことが求められます。また、職員同志のお互いに何でも率直に話し合えたり、相談できる雰囲気や職場環境が事故を防ぐことに繋がると考えます。悪いことはすぐに上司に報告を

5 施設での看取り介護の推進と認知症介護の取り組み

介護現場の生産性の向上と効率化の為に、介護のICT化の研究、ロボット化・機械化の推進・介護の仕事の分業化の推進を図っていきます。法人が永年にわたり実践してきた看取り介護をマニュアル化・テキスト化して信頼される看取り介護を継続していかねばなりません。法人のブランド力の一つに、高い生活の質を保障した穏やかで信頼される看取り介護のノウハウと技術の蓄積及び認知症介護の実践力とノウハウがあります。これらを更に高めていくこと、過去の実績を次の世代に伝えていくことが今後も求められます。



6 障害者施設での農福連携等の新規事業や高齢者の在宅支援事業について

障がい者の分野ではこれまでの福祉の枠に捕らわれずに、新たな農業・福祉連携事業として、未利用園芸施設を借用しての障がい者・高齢者の農業従事と農産物の直売所や軽食提供施設の開設などを検討していきます。障がい施設でのハーブ園・薬草園などの新たな取り組みも検討する必要があります。

障がい福祉支援事業では、ぬくもりの里・ふらっと月ヶ瀬等において、障がい者の共同生活のグループホームや重度障害児者に特化したグループホーム等施設の整備を検討していきます。高齢者の在宅支援事業では機能訓練に特化したデイサービス、また、デジタル技術を活用したデイトレ・ICTリハビリの考えも取り入れ、デイサービスのメニューの多様化・充実、介護予防活動の見える化のソフト導入、法人独自の入浴サービスの復活、買い物外出・通院等の移送・移動支援など実施できることから進めていきたいと思いま

7 施設機能の効率化や生産性の向上と経費削減への本格的な取り組み

令和4年度からの電気料金をはじめとした諸物価高騰による事業費と事務費の上昇により社会福祉法人の経営がかなり圧迫され、収支差額も極めて厳しいものとなっております。今後、人件費や事務費、事業費の徹底的な見直しや生産性の向上への取り組みにより経費の削減、無駄を省く経営、健全な経営を推進していかなければならないと考えています。頑張る職員への支援、キャリアアップ・能力主義、子育てと両立して働ける職場環境の整備を進めていきたい。働く職員の満足度の向上及び職員ファーストの立場を推進すると共に、安心・安全なサービスの提供と利用者本位サービスの提供の双方を実現していきます。それには、介護現場にも業務改善と生産性の向上の取り組みを早急に推進することが必要であると考えています。今後5年先、一〇年先の人口の減少化、生産人

口の減少を考えると、介護業務の標準化、簡素化、平準化の考えを取り入れ、介護施設での働き方改革は急務であり、今年度はぜひその取り組みを推進していきたいと考えています。

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症予防を最優先し、利用者・入居者の生活と命を守りながら、利用者本位と職員ファーストの両方を堅持し、職員一人ひとりのモラル・技術向上、サービスの創意工夫を図り、職員に笑顔が溢れ、明るく働きやすい職場環境、職員に活気のある介護・福祉現場の実現と、利用者・家族・地域から信頼される施設作りに向けて、全職員で取り組んでいきます。



令和6年度 社会福祉法人 春風会 事業経営基本方針

- ① 利用者の人格を尊重し、職員の助け合う心と創意工夫の発揮、信頼される施設づくり
- ② 職員の研修教育・キャリアアップ制度の充実、資格取得の支援と福利厚生への推進
- ③ 健全で安全な経営と職員のモラル・マナー教育の推進
- ④ 施設内委員会活動、科学的介護と穏やかな看取り介護の推進
- ⑤ 栄養部門の献立メニューの開発と配食サービスの拡充・改革の推進
- ⑥ 在宅サービス事業の強化・改善を図る
- ⑦ 介護・保育・障がいの福祉の魅力発信と福祉現場でのIT化の推進、生産性の向上を図る
- ⑧ 法人職員の活性化と育成、70歳までの継続雇用と子育て支援・EPA等での人材確保対策の推進



各施設長あいさつ

「新年度に思うこと」

あしたかホーム
副施設長 佐野 光正

はじめに、元日に発生しました能登半島地震により犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表しますと共に、被災された多くの皆様にご心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。改めて、地震への備え（特にマグニチュード8以上と想定される南海トラフ地震により甚大な被害が想定される）は差し迫った課題であると痛感しています。

あしたかホームでは、早期から地域の自治会等との合同防災訓練を通して地域との関係性を構築して、災害福祉の拠点としての役割も果たせるよう努めてまいりました。しかし、新型コロナウイルスによる施設の開放や地域活動の自粛・停滞により、お互いに協力できる繋がりが薄れている感覚もあります。また、高齢化や家族構成含めた人口減少もありますので、地域自治会との防災協定を含め、地域住民の皆さんとお互いに助け

合う「共助」の仕組みと、私たち職員各々が「自助」の意識を高め、利用者の安全を守る、地域にとって必要とされる施設としての役割を果たすことができる体制の構築をより一層進めていく必要があると考えております。

新型コロナウイルスは、昨年5月に感染症法上の位置づけが5類へ移行しましたが、ウイルス変異を繰り返しています。また、国際社会のグローバル化や気候変動に伴う生態系の変化、戦争等の影響により新興再興感染症の出現頻度も多くなるとも言われています。コロナ禍で多くの制限の中、接触等による感染リスクを最小限とした行事等やITなど活用した会議など新たなサービスができました。コロナ禍前に戻るのでなく、それぞれの良いところを組み合わせて必要とされるサービス提供に努めてまいります。

最後に、「コロナを含め感染症は終わっていない」「自然災害は起こる」と自覚して、自分の身は自分で守る危険意識と、周りを思いやる配慮の気持ちを持つことが、より一層大切になると思われます。

新年度のご挨拶

伊豆中央ケアセンター
統括施設長 堀内 和憲

令和6年度を迎えるにあたり新年度のご挨拶を申し上げます。

伊豆中央ケアセンターは平成6年4月に開設され、昨年度は設立30年にあたり、今までの活動や歴史を振り返ることを目的に、30周年記念誌を作成しました。その中で感じたことは制度や時代背景は変わったが、変わらないことは「福祉は人なり」であることを再認識いたしました。

今年度は、医療・介護・障がい関係の6年に一度の報酬改定の年です。特に介護報酬関係については、高齢者人口がピークを迎える2040年頃に向けて、85歳以上人口割合の増加や生産年齢人口の減少やそれに伴う社会環境の変化が予想され、介護需要の増加と介護人材の不足が今後の課題であり、それに伴う内容の報酬改定が行われます。

現在施設のあります伊豆市は、人口約28,000人、高齢化率42%、後期高齢化率23%、新生児

は100人を切るような、少子高齢化のますます進んでいる地域です。

この様な状況下で、市内の関連施設は高齢者施設、高齢者住宅サービス事業、障がい者通所施設、認定こども園、放課後児童クラブ等と幅広く地域福祉事業を展開しております。そのような中で、これからも福祉事業を行っていく上で最も大切にしていきたいことは、利用者の尊厳を守ることと同時に、そこで働く職員の満足度を少しでも上げる職場環境の向上が重要であると思います。

今年度は、過去4年にわたる新型コロナウイルス感染症の対応で学んできたことや、そしてその期間に出来なかつた活動などを少しずつ取り入れ、また、能登半島の地震災害などの対応も参考に、南海トラフ地震などの自然災害に対する備えなどを職員や関係機関の方々と検討し、安全で安心できる施設運営をしていきたいと思っております。



「新年度に思うこと」

ぬくもりの里

統括施設長 飯田 忠

令和6年元日、能登半島は年明け早々まさに家族団欒でお正月気分浸っているところに何の前触れもなく激震と押し寄せた津波で甚大な被害を被りました。しかも間髪入れずに日航機と海保航空機の衝突事故が追い打ちをかけ、壮絶な幕開けとなりました。「今年は一休みたいな年になるのだろうか」と思ったことは誰しも同じことかと。しかしこれは全く他人ごとではなく、明日来るかもしれない南海トラフ地震への備えや心積もりなどについて今まで以上に真剣に取り組む必要性を改めて考えさせられました。

令和6年度は4月に3年に一度の介護報酬の改定が行われ、私たちは改定内容を熟知し、適切な確かな対応が求められます。場当たり的でなく先を見越して柔軟に変化・対応できる良い意味での変わり身の早さも必要かと思えます。改定にあたって賃上げや物価高への対応、経営安定、介護現場の人材不足解消や処遇改善を進める狙いから報酬単価は介護及び障がい共にプラ

ス改定で引き上げとなりました。しかしながらこれも決して手放しで喜べるわけではなく、とりわけ訪問介護の報酬単価引き下げは理解に苦しむところであり、今回のプラス改定で狙い通りに事が進むとは到底思えず問題解決への道は険しいと思います。

そんな状況下ですが私たちは愚痴や不満を言っている場合ではなく、他力本願ならぬ自力本願で自分たちがなさなければならぬことは成すべきこととして行なわなければなりません。避けて通れない問題、課題は山積しており、未だ終息を見ず感染拡大を繰り返す新型コロナウイルス、ナウイルス感染症と戦いながら基本である質の高い介護力の維持・向上を図り、今後の新たな事業展開、虐待・事故防止、人材の確保・育成、AI・ICT化の推進、生産性の向上そして地域への貢献も忘れずに今年度は取り組んでいきます。

私どもの施設「ぬくもりの里」は本年開設30周年を迎えます。先人たちの築いてきた尊い財産を守りつつこれまでに培ってきた知識・技術、経験、信頼、介護力を生かし私共施設の存在意義を示せるよう努めてまいります。

新年度のごあいさつ

みはるの丘浮島

施設長 長田 直樹

今年度みはるの丘浮島は、平成16年4月に開所してから20年目を迎えることができました。この節目の時に、ここまで運営を支えていただいた地域や行政の関係者の皆様、利用者・ご家族の皆様へ感謝し、二〇周年記念誌を作成し配布させて頂きました。コロナ禍ということもあり記念式典は職員のみで実施し、今後地域福祉に貢献できるよう気持ちを新たにしました。

来年度の施設方針として、①人材確保と安定した事業運営、②感染症対策の継続と利用者の日常生活の確保、③ICT機器や新たな介護機器の活用によるケアの質向上と働きやすい職場環境作りの三つを取り組み課題としました。①について、福祉は介護士による人の手で成り立つので、人材確保は事業運営の元となるものです。社会全体で人手不足の中、介護業界も顕著な働き手不足の状況ですが、職員の育成や高齢者の活用、外国人雇用などを継続して人材確保に取り組みしていきたいと思えます。

②について、令和2年から始まったコロナ感染症は2類から5類と感染症の位置づけは下がりましたが、高齢者は重度化するリスクがあり、まだまだ予断を許さない状況です。これまでコロナ禍では感染予防を優先したため、行事を中止し面会も制限し家族とも会えず、人と人の交流がなかったため、利用者は生きる気力を失ってしまったように思われます。そのため、今年度から感染予防しながら、季節の行事や面会を再開したところ、利用者にも笑顔が見られるようになりました。来年度も少しでも利用者が元気に過ごしていただけるように感染予防しながら、行事や面会を実施していきたいと思えます。③について、人手不足と介護士の身体的負担を補助するように、見守りセンサーや、移乗を支援する介護機器が多く出ているので、利用者の安全な生活と職員の負担軽減を図り働きやすい職場環境を目指して介護機器の活用に取り組んでいきます。そして、利用者へのサービ

ス向上を第一として、専門職間で連携し、利用者の皆様から喜んで頂けるような運営ができるように努めていきたいと思えます。

各施設長あいさつ

毎日を大切に
今を生きる

沼津市立高尾園
施設長 川口 浩史

能登半島地震にて被災された全
ての方々にお見舞いを申し上げます
と共に、一日も早く穏やかな暮ら
しを取り戻せますようお祈り申し
上げます。

さて、皆様にとって令和5年ほど
のような年だったでしょうか？私に
とつての昨年は、実はあまり良い印
象の年ではありませんでした。と
言うのも、若い頃から好きだっ
た人たち（ミュージシャンがほと
んどですが）が何人もお亡くなり
になられたからです。中には私と年
齢がさほど変わらない方もおり、
改めて「確かに自分も歳を取って
いる」と感じました。自分自身の
加齢の気付きと同時に、「既にいつ
何があってもおかしくない年齢で
ある」という気付きもありました。
いつまでも続くとはんやりと感じて
いた自分の命は、いつ終わるかわか
らない。とても当たり前前のことだ
が、正直に言って今まで私は、自
分事として自覚することがありま
せんでした。

元日に能登半島で起きた大地震
によって、この思いは更に強くなり
ました。自分の健康状態だけでは
なく、自然の力に勝てず奪われる
命もあります。1月2日には航空
機事故がありました。幸いにも多
くの命が救われましたが、あのよ
うな事故で命が奪われることもあ
ります。今年の正月は胸が苦しく
なるようなニュースで溢れ、多くの
人は悲しい気持ちや不安な気持ち
で過ごされたことと思います。私
もその一人でした。でも怖がって
何もできずにいるのも違うと思いま
す。ではどうやって加齢やいつ来る
かわからない死に向き合えば良いの
でしょうか。私の答えは一つです。
「毎日を大切に過ごし、悔いのな
い人生を送る」大切に過ごすとい
うのは、何を大切にするかという
ことも重要で、それは第一に家族
であり、友人であり、利用者様で
あり、共に働く職員であり、そし
て自分。自身に関わってくださる
全ての人と自分を大切ににして、悔
いのない人生を送りたい。たとえ
哀しいニュースでも何とか前向き
に捉え、今年も色々なことに向き
合っていきたいと思えます。

新規採用された皆さんへ

社会福祉法人春風会 理事長 石川三義

皆さんは来年4月より春風会の新規採用職員として
入職されます。現在、介護・福祉業界は大変な人
材不足が生じています。2040年には70万人の人
材が不足すると言われてます。団塊の世代の方々が、
今後75歳を過ぎて80歳、90歳という年齢にな
った時に、それを支える若い人たちがどんどん減って
います。私たち法人は、職員の人間性やモラルを大切に
しています。働く職員の人間性やモラルが高まることで
良い介護ができると思います。法人は一人ひとりの職
員を大事に育て、介護現場で多くのお年寄りや障がい
者の皆さんを支えていきたいと思っています。皆さんが
介護現場に入った時に、分からないこと・困った
ことがあった時には、独りで悩まずに先輩職員やトレ
ナー職員に相談して下さい。今後、介護現場では介
護人材不足を補うために、ICT化やデジタル化へのイ
ノベーションが求められます。旧態依然の同じような介
護をしては、これからの時代に対応できません。また、
外国人の介護職員も増えており、みな一生懸命に頑
張っています。皆さんもしっかりと勉強して多くの仲間と
良い仕事をしていただきたいと思えます。

新たな仲間たちを迎えて

令和6年度 社会福祉法人春風会
新規学卒採用予定者入社内定式



春風会では、令和5年12月9日
に令和6年4月1日付け新規採用
予定者の入社内定式を行いました。
今年度の新規学卒の採用内定者は
8名です。
式では石川理事長からの講話が
行われた後、各施設長による施設
アピールや先輩職員からのメッセー
ジも寄せられ、内定者からは全員
の自己紹介が行われました。内定
者は4月から社会人として働く事
の心構えなどの先輩職員からアド
バイスを得て、閉会時には、4月
からの勤務に胸を膨らませていま
した。



EPA介護福祉士候補生入社式 海外からの仲間たちを迎えて

春風会では令和5年度に5名の経済連携協定（EPA）介護福祉士候補生が入職しました。今年度は、インドネシアから4名、フィリピンから1名の計5名のEPA介護福祉士候補生です。また、特定技能実習生はベトナムから伊豆中央ケアセンターに入職します。ベトナムのドンア大学からのインターンシップ生として伊豆中央ケアセンターにて1年間働いた後に帰国し、再度特定技能実習生として来日するものです。配属先施設にて介護福祉士国家資格の取得に向け、頑張ってください。



Indonesia



Vietnam



Philippines



ミンチェグズマイミンソー

出身国：
インドネシア
西スマトラ島

配属先：
みはるの丘浮島

ひとこと：
日本語の勉強と仕事の流
れを早く覚えたいです！



フィットリ アウリア

出身国：
インドネシア

配属先：
みはるの丘浮島

ひとこと：
日本語の勉強と利用者様
のケアを頑張っていきたい
です！



アマドレンディー サブトラ

出身国：
インドネシア

配属先：
ぬくもりの里

ひとこと：
好きな食べ物は、ラーメ
ンです！
一生懸命頑張ります！



アマドヨギー サンジャヤ

出身国：
インドネシア

配属先：
ぬくもりの里

ひとこと：
国家試験に合格し、永く
日本に住みたいです！



マリアノルド マルチェラーナ

出身国：
フィリピン
ルソン島

配属先：
プレーグあしたか

ひとこと：
周りの介護スタッフが優
しく教えてくれるので、
一生懸命頑張ります！



フィンティトウェット ガー

出身国：
ベトナム

配属先：
伊豆中央ケアセンター
デイサービス

ひとこと：
また伊豆中央ケアセンター
に戻ってきました。利用者
の皆さんと楽しい日々を送
っていきたくです。

餅つき大会

初めての異文化体験



昨年十二月にみはるの丘浮島では餅つきが行われました。

少し肌寒い天気でしたが、職員がお餅をつくたびに利用者の皆さんから「よいしょ！よいしょ！」と元気な掛け声が聞こえ、季節の行事を楽しまれました。

EPA介護福祉士候補生のニンチェさんとフィットリさんも餅つきに初めて参加しました。二人は十二月にみはるの丘浮島に入職し、介護福祉士資格の取得に向けて、利用者の皆さんと触れ合いながらたくさんの事を学んでいます。インドネシアから来日した二人にとって餅つきは初体験です。最初は恐る恐る利用者や職員のアドバイスを聞きながら杵を振り上げていましたが、何回かついていくうちに上手に出来るようになり、利用者の皆さんから歓声や拍手が上がりました。

つき上げたお餅は、その後二

人も参加してお餅を丸めて大福やきな粉餅などを作りました。大福を作っている途中、ニンチェさんとフィットリさんが「これはチョコレートですか？」と初めて見る餡子に興味津々。「餡子の元は何ですか？」「インドネシアにも似ている料理がある」などたくさんお話しをしてくれました。

今年もみはるの丘浮島ではたくさんの行事を行っていきます。日本の文化に触れ、経験しながら利用者の皆さんと楽しい思い出を作って欲しいです。

利用者一人ひとりに寄り添い、生活の支えになる介護士になれるように職員一同、指導していきたいと思っています。



あしたか デイサービス



家族介護者 懇談会

令和5年11月12日にコロナ禍で開催出来ずにいた家族介護者懇談会を3年ぶりに開催しました。当日はご家族15名、利用者2名の参加を頂き、活動報告、体験、家族者懇談会、施設内見学などを行いました。普段利用者が行っているストレッチ体操やDAMレク、デュアルタスクをご家族に体験して頂くと、「椅子に座りながらの体操がこんなに疲れると思わなかった。デイはどうだった？と聞いても、良かったよ。位の話しかしてくれないからわからなかったけど、おばあちゃん、いつも頑張っているんだね。」という声が聴かれました。

家族者懇談会では、ご家族が普段感じている不安や疑問、デイへの質問などがありました。平成27年に意味性認知症の診断

を受け令和2年からデイを利用しているS様のご主人からは「この病気になってから全く変わってしまった。病気になる前は何でもやっていた。料理や編み物、手芸、私の世話全てをやって、周りが羨ましがる位だった。子どもが大好きで笑顔を絶やさない本当に優しい女性だったが今は言葉がわからないし返事も出来ない。しゃべれない。生活の全てが変わってしまったけど優しいところ、笑顔は変わっていない。自分が大切にされてきた分、今度は妻を大切にしていきたい。可愛くて仕方がないと感じる。とても手がかかると思います。よくやってくれてデイには感謝しています。」というお言葉を頂きました。利用者、ご家族のこれまでの生い立ちなどの背景を知り、想いや眼差しに触れることで普段様々なこだわりのあるS様が理解出来る支援者として一段と身の引き締まる思いになりました。

私たちは、これからも利用者やご家族の思いに触れる機会を大切にし、日々の支援に繋がっていききたいと思います。



ランニングバイク出前教室

あまぎ認定こども園

1月12日にランニングバイク出前教室があり、年長児31名が参加しました。伊豆市観光商工課が主催の出前教室で、東京2020大会開催を機に、市内の子ども達が自転車に乗れる率100%を目指す事を目的として、市内の園児を対象に行っている事業です。ランニングバイクはペダルのない自転車で、またがった姿勢から地面を足で蹴って進みます。上手な子はひと蹴りでかなりの距離を進む事ができますが、上手くできない子はよちよち歩きになってしまいます。園にもランニングバイクはありますが、苦手意識のある子は自分からはなかなか挑戦しません。しかし、外部の方がイベントとして行うと新鮮に映り、苦手な子も興味を示しやってみようとする気持ちが沸くようです。今回も「楽しい」「もっとやりたい」とどの子も大喜びでした。伊豆市は自転車まちづくり協議会があり、サイクリングコースやレンタサイクルなど、自転車にまつわるさまざまな取り組みで町おこしをしています。このような環境の中、子ども達

が自転車をより身近に感じ、『自転車のまち』伊豆市』に愛着を持ってもらえることを期待します。



成人のお祝い会

あおばの家

今年、年明け早々大規模な災害や事故により不安な幕開けとなりました。とはいえ、明るい話題もありました。あおばの家で1名の利用者が成人のお祝いを迎えました。

当施設では、重度の障害により一般的に開催される式典には参加できない利用者に対し、ご本人及びご家族の意向を確認した後、施設での成人のお祝い会を実施しております。コロナ禍前には、式典には、保護者の方にも参加していただいておりましたが、コロナ禍においては、利用者と職員で実施してまいりました。

式では、事前に預かったご家族からの心温まるメッセージを職員が代読しました。ご本人は、少し恥ずかしそうでしたが、手作りのプレゼント等を嬉しそうに受け取っていました。次に、職員による出し物が披露されました。人間だるま落としゲームをしたり、フラフラプクぐりを行ったり、参加者全員からたくさん笑顔と歓声があがりました。そ

して、締めとして、辰年の利用者前に出て一年の抱負を発表していただき盛り上がりました。参加された利用者の皆さんから大変好評でした。後日、ご家族様から感謝の言葉をいただくだけでなく、ご本人の晴れ着姿をわざわざ施設まで披露しに来てくださいました。ご家族もご本人もとてもうれしそうでした。職員も心温まる瞬間を味わうことができました。

新型コロナウイルスが、5類に移行となり半年以上が過ぎる中、他の感染症及び災害にも警戒しながら、当施設においても上記のような日常を取り戻すべく、利用者、ご家族のために努力してまいります。



「災害時誰一人取り残さない まちづくりプロジェクト」

令和5年6月に伊豆の国市では、医療・介護・福祉の専門職による災害時に誰一人取り残さない地域づくりの会が発足し、災害時に誰一人取り残さないまちづくりプロジェクト（以下、「プロジェクト」という）の取り組みが始まりましたので紹介させていただきます。

インクルーシブ防災の必要性

東日本大震災では、亡くなった人の6割以上が60歳以上の高齢者であり、障害のある方の死亡率は、住民全体の2倍だったことなどが問題視され、令和3年の災害対策基本法の改正で、自力では避難が難しい方や逃げ遅れてしまう方を対象として、市町村行政を中心に、先に作成が義務化となった避難行動要支援者名簿をもとに、避難行動要支援者個別避難計画が努力義務化されました。

プロジェクトについて

そこで、伊豆の国市では、災害時に対応できる地域包括ケアシステム構築を目指し、自力で避難が難しく、避難行動に支援を必要とする人や長期間の停電等によって危機的状況になる医療依存度の高い人等に対して、誰一人取り残さない地域づく

りを目指し、医療や介護・福祉の専門職が協力して、地域住民による平常時の見守り体制や、発災時の避難支援の整備等、地域全体で取り組むことを目指すプロジェクトが始まりました。

まずは最初の第1歩として、令和5年度の目標を次のように立てました。

- ① 発災時の避難支援や安否確認の優先度の高い方の把握
- ② 優先度の高い方から、個別避難計画を作成していく
- ③ 災害時の対策や災害における地域の課題を検討する

優先度の高い人の把握に関して、伊豆の国市では、浸水被害の多かった令和元年の台風19号による道路の冠水や家屋への浸水により、避難行動等の身動きが取れなくなった地域や土砂災害が予想される地域に住んでいる方、介護や特別な医療・電源使用の医療機器を使用されている方、家屋が古く（昭和56年以前）、大震災が発生した際に、自宅の倒壊や家具の転倒により生命の危険や避難場所の確保が必要と予想される方等、家族や本人の力だけでは対処できない人の把握を目指しました。

安否確認優先順位一覧表の集計結果

図1のように、プロジェクトに協力を頂いた市内等の医療や福祉・介護の相談業務等を担う専門職の28事業所から優先的に安否確認が必要と思われる対象者が524名挙がりました。電源使用の医療機器を使用す

【誰ひとP】安否確認優先順位一覧表 集計 (R5.12.7)

参画事業所数	提供事業所数	対象者数	優先順位										要介護3以上 障害区分3以上	要配慮者 希望有	要配慮者 録済有	個別避難 計画有
			電源 使用 医療	特別な 医療	その他 配慮	家具 不在	避難 支援 不在	19号 浸水	浸水深 3m以上	土砂 災害 特別 警戒	土砂 災害 区域	該当 なし				
28	28	524	22	44	93	115	227	35	215	29	79	78	139	115	2	59
内訳																
1	地域包括支援センター(3)	155		10	21	25	73	11	72	6	22	22		5		3
2	居宅介護・小規模多(18)	342	20	32	62	85	135	23	137	23	57	55	124	103	2	51
3	相談支援・医療機関(7)	27	2	2	10	6	17	1	6			1	15	7		5

る人と特別な医療を必要とする人が合わせて66名、令和元年の台風19号の浸水地域に住む人が35名、土砂災害特別警戒区域に住む人が29名など今まで把握できていない人の実態が見えてきました。そして、半数に近い人が身近に家族等の避難支援者がいないため、優先的に安否確認が必要と専門職は考えており、避難支援者となる地域住民同士の支え合いが非常に重要であると確認できました。

今後のプロジェクトが目指す方向

専門職だけで地域の災害時の対策を担っていくことは困難であり、効果的ではないと考えます。実態把握や災害時の個別課題の抽出する段階では、我々の専門職の役割は大きいと考えますが、実際の避難支援では十分な役割を担えません。災害時における個別の課題と地域の支援をつなぐコミュニケーション・ネットワーク機能を担う役割が不可欠であり、そこを担う人材の育成が今、必要です。様々な災害を想定し、地域の多様な機関がつながり、地域力を高める取り組みが大切だと考えています。

あごがき

1月1日に能登半島地震が起こりました。この度の震災に対し、心からお見舞い申し上げますとともに、皆様方の一日も早いご復興をお祈り致します。



静岡県優良介護事業所表彰『職場環境改善部門』受賞

令和5年度静岡県優良企業表彰が行われ、職場環境改善部門で「ぬくもりの里ホームヘルプサービス」が受賞しました。職場環境改善部門は、静岡県内で介護保険法に基づくサービスを提供している事業所等で、

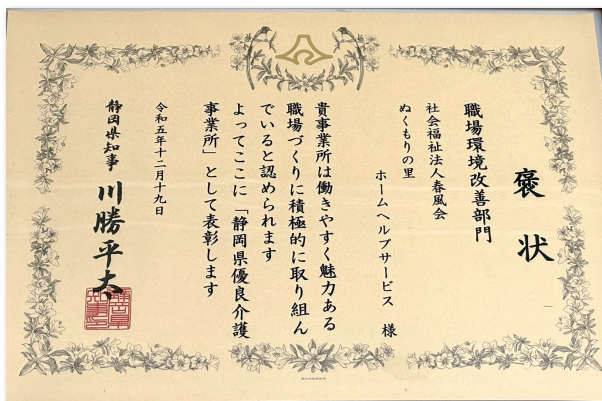
- ①離職防止・定着促進に向けた取組
- ②人材育成のための取組
- ③働きやすい職場づくりのための取組

の、いずれかの取り組みを積極的に行い、顕著な成果を挙げた事業所が表彰対象となります。

表彰式では、第26回合同職員研究発表会で優秀賞に選ばれた「ホームヘルプサービスのICT化 シズケアかけはしの活用」の内容で取組発表も行いました。

表彰にあたり、高齢化していくヘルパースタッフではありますが、iPad とポケット Wi-Fi を全員が使いこなし、「意外と私たち、時代に適応できているじゃん」と褒め合い、新しい取り組みにも積極的に挑戦する雰囲気が出ています。

今年度は研究発表から始まり、名古屋での医療・介護・市民・全国ネットワーク、第2回全国の集いでは、様々な職種の発表、諏訪中央病院名誉院長である鎌田實先生や元東京大学教授、赤髪で有名な上野千鶴子先生をはじめとする方々の記念講演を聞くことができました。静岡での第12回静岡県高齢者福祉研究大会では、県内の各事業所の研究発表を聞き、たくさんの刺激を受けました。



私たちぬくもりの里ホームヘルプサービスは、多職種連携を進めるために、ICT を活用し「シズケアかけはし」に活発に参加していくことが大切だと思います。それにより、円滑なコミュニケーションを図れるようになり、ヘルパー1人ひとりが安心できる訪問活動につながると思います。これからも向上心を忘れずに活動していきたいと思っています。



- 春風会法人本部・特別養護老人ホーム あしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297
- 特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX (0558) 76-6755
- 原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511
- ふれあいデイサービス (デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380
- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市高尾156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723
- ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299
- 障害サービス グループホーム なぎの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221
- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880
- あまぎデイサービス (デイサービス一般型)
TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム (障害サービス)
TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201
- プラムカフェ
TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2414 伊豆市本立野531-1
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334